

**海外へ進出する  
日本人・企業のための  
爆弾テロ対策**

**Q&A**



**外務省**

世界の様々な地域で発生する爆弾テロについては、これまでも、特に日本人や日本企業が被害者となる事件が発生しており、各人・各企業がそれぞれの状況に応じた対策を十分に講じておくことが望まれます。このQ & Aは、爆弾テロ対策について平素の措置やケースごとの対応策等の要点をとりまとめたものです。

外務省では、爆弾テロ対策の他にも海外における安全対策のためのパンフレット等を作成しています。また、「海外安全アプリ」や「たびレジ」を活用すれば、旅行中も正確な情報が入手できますので、御利用をお勧めします。

いずれも、世界各国地域の海外安全情報を掲載している

外務省海外安全ホームページ

(<http://www.anzen.mofa.go.jp/index.html>)

からも参照できます。

外務省領事局  
邦人テロ対策室

## 日本人や日本企業が被害を受けた最近の主な爆弾事件

### 1 バンコクにおける爆発事件(2015年8月、タイ)

8月17日、首都バンコク中心部の交差点で爆弾が爆発。20人が死亡、129人が負傷(うち日本人1人が負傷)。

### 2 イスタンブールにおける自爆テロ事件(2010年10月、トルコ)

10月31日、イスタンブール市内タクシム広場で自爆テロが発生。32人が負傷(うち日本人1人が負傷)。

### 3 ムンバイ連続テロ事件(2008年11月、インド)

11月26日、インド・ムンバイにおいて、ホテル、レストラン、駅等十数か所で同時多発テロが発生。死者165人以上、負傷者約300名(うち日本人1人が死亡、1人が負傷)。

### 4 イスラマバード・イタリア料理店爆弾テロ事件(2008年3月、パキスタン)

3月15日、首都イスラマバードにある、外国人客の多いイタリア料理店の庭で爆弾が爆発し、1人が死亡、15人以上が負傷(うち日本人2人が負傷)。

### 5 バリ島における連続爆発事件(2005年10月、インドネシア)

10月1日、バリ島のジンバララン地区及びクタ地区で爆弾が爆発。23人が死亡、100人以上が負傷(うち日本人1人が負傷)。

### 6 ロンドン地下鉄等での爆発事件(2005年7月、英国)

7月7日、首都ロンドン市内の地下鉄3カ所及びバス1台において連続して爆発事件が発生。52人が死亡、約700人が負傷(うち日本人も負傷)。

### 7 バグダッドの国連本部爆破事件(2003年8月、イラク)

8月19日、首都バグダッドの国連機関の本部が入っているホテルで爆発が発生。20人以上が死亡、約100人が負傷(うち日本人1人が負傷)。

### 8 リヤド市内における爆弾テロ事件(2003年5月、サウジアラビア)

5月12日、首都リヤド市内にある外国人居住区2か所に爆弾を搭載した車両がそれぞれ突入して爆発。20人以上が死亡、約200人が負傷(うち日本人3人が負傷)。

### 9 バリ島における爆弾テロ事件(2002年10月、インドネシア)

10月12日、バリ島のディスコにおいて爆発が発生。202人が死亡、300人以上が負傷(うち日本人2人が死亡、13人が負傷)。

### 10 在ケニア、タンザニア米大使館爆破事件 (1998年8月、ケニア及びタンザニア)

8月7日、両国の首都ナイロビ及びダル・エス・サラームの米国大使館付近で爆弾が爆発。250人以上が死亡、約5,000人が負傷(うちケニアで日本人1人が負傷)。

### 11 レストラン爆破事件(1995年12月、ロシア)

12月20日、首都モスクワの日本料理店に仕掛けられた爆弾が爆発。店内に損害。

### 12 フィリピン航空機内爆破事件(1994年12月、日本)

12月11日、沖縄県南大東島付近上空を飛行していたマニラ発セブ経由成田行きのフィリピン航空機内で爆弾が爆発。日本人1人が死亡、6人が負傷。



## 1 爆弾テロ対策として、平素からどんなことに心がけておく必要がありますか？

爆弾テロの被害に遭わないためには、平素から、関連情報を収集・評価し、物的・人的措置を講じ、訓練を行い、爆弾テロの標的とならないように、また爆弾が設置されても適切に対応できるようにしておくことが極めて重要です。

### 1. 情報の収集・評価

次のような現地の治安情勢、特に爆弾テロに関する情報を正確に把握しておく必要があります。

- (1) 我が国の在外公館、現地の治安当局、新聞等の情報を通じて、現地における爆弾テロの発生状況、犯行組織、政治背景、手口（手紙、車等を使用するのか）、使用爆弾の特徴（ダイナマイトかプラスチック爆弾か）、攻撃の対象（無差別か特定目標か）、発生時刻・場所等につき承知しておく。
- (2) 収集した情報に基づいて、爆弾テロの直接・間接的な脅威を評価する。この際、現地の情勢に加え、日本国内の情勢や世界の他の地域の情勢がもたらし得る脅威の影響も考慮に入れる。
- (3) 最寄りの警察等の緊急時の連絡方法を確認しておく。また、爆発物発見時の避難場所についても複数のオプションを用意しておく。

### 2. 物的安全対策

爆弾テロ防止のためには、事務所や工場を設置する以前の段階から、次のような考慮を払っておく必要があります。

- (1) 事前調査を十分に行い、テロリスト等の攻撃の対象となるおそれのある施設の近辺には事務所等を設置しない。特に共同使用のビルに事務所を設ける場合には、このようなおそれのある企業等の事務所の近隣はできるだけ避ける。
- (2) 車両に仕掛けられた爆弾によるテロを防止するため、利用する駐車場の出入口数はできるだけ少なくし、車両通行用と歩行者用を区別しておく。駐車場は可能であれば社員用と外来用を区別し、外来用は事務所建物から離して設置する。また、社員用には監視員を配置する等警備対策を講じる。
- (3) 事務所内に爆弾を設置されないよう人の移動を規制するため、事務所内は来訪者の立入りを認める区画と社員のみが立ち入ることができる区画に厳格に区分する。人物の出入規制に当たっては、監視カメラやIDカード読取器等の機器の設置を考慮する。
- (4) 爆発時の被害を抑えるため、ガラス窓には飛散防止フィルムを貼付するとともに、爆発物飛来防止のため金網又は幅の狭い鉄格子を取り付ける。
- (5) 爆発物の発見を容易にするため、ロビーや事務所等の外周にはできるだけ植え込み等を設けないことが望ましい。
- (6) 爆弾テロの脅威が極めて高いときには、車両爆弾による攻撃を阻止するためのコンクリート・ブロック等の進入防止用車止めの設置を考慮する。

### 3. 人的安全対策

爆弾を設置させない、また、設置されても早期に発見するため、次のような措置を講じておきます。

- (1) 来訪者及び手荷物のチェックを確実に行う。必要に応じ金属探知機（雷管探知のため）を使用する。ゲート式の金属探知器は処理速度は速いが感知できないものもある点に留意する必要がある。可能であればスタック式による荷物検査と身体チェックが望ましい。
- (2) 車両の入構時にトランクや車下部の検査を行う。
- (3) 社内外の整理整頓を常時徹底するよう心がける。

- (4) 社内外の死角をなくし、見回りを頻繁に行う。
- (5) 外堀への爆弾設置、外堀の側での車両爆弾防止のため外回りについても見回りを行う。
- (6) 可能ならば、事務所等に隣接する道路上の駐車は禁止する。
- (7) 社員全員が不審物(放置荷物、手紙、小包等)に対し注意するよう平素からよく教育しておく。

#### 4. 安全訓練

爆破予告があった場合ないし爆発物と疑われる物を発見した場合に備え、次のような準備・予行訓練を十分に行っておくことが重要です。

- (1) 爆破予告(電話・手紙・メール等)があった場合ないし爆発物と疑われる容疑物件を発見した場合の行動基準を定め、全従業員に周知する。
- (2) 爆破予告電話を受ける可能性のあるすべての社員(特に電話交換手)に対し、爆破予告電話への対応要領を周知し、訓練を行う。
- (3) 実際の場合も混乱に陥ることなく速やかに避難できるよう、避難訓練を反復実施する。

#### 5. 連絡手段の確立

不測の事件が発生した時は、大使館、総領事館では直ちに在留邦人の方々、旅行者の方々の安否確認を実施します。安否に係る情報は、万一の場合における早期の支援や被害の拡大防止のために極めて重要となるので、次のような措置を講じておくことが重要です。

- (1) 社員や家族について長期滞在者は在留届の提出を、出張者等はたびたびレジの登録を励行する。
- (2) 外出する際には、職場や家族等に行先地や帰宅予定等を知らせておく。
- (3) 外出時はできる限り複数人数で行動するとともに携帯電話などの通信手段を確保する。
- (4) 外出先で何らかの事件、事故に遭遇した時には、大使館、総領事館へ通報する。
- (5) 深夜の電話にも対応できる体制を整える。

## 2 爆破予告電話に対してはどう対応したらよいのですか？



爆破予告電話には単なる嫌がらせから、真の脅迫、さらには予告まで様々なものがあります。このような電話がかかってきた場合、いたずらにパニックになることなく、一応信憑性のあるものと仮定して、適切な対応を行うことが被害を最小限に食い止める上で極めて重要です。このためには、爆破予告電話への対応を平素から社員に周知徹底させ訓練を行っておくことが重要になります。

また、脅迫内容を正確に把握し、後日の捜査に役立てられるよう電話録音装置を用意しておくことをお勧めします。具体的な対応要領は次のとおりです。

#### 1. 電話を受けた時点での対応

- (1) 電話を受けた人は余裕があれば、近くにいる人にメモを渡すことにより、警備担当責任者に、今、脅迫電話を受けている旨を連絡する。
- (2) できれば電話を録音しておく。
- (3) まず、冷静に対応し、通話内容を正確に聞き取ることが何よりも重要である。

(4) 通話を中断させず、質問等により会話を引き伸ばし、できる限りの情報入手(特に爆発物を仕かけた場所、爆発時刻)に心がける(P.11のチェック・リストの質問事項を参照)。

(5) また、通話後直ちに犯人との会話の詳細を記録しておく、後日の対応に役立つ(P.11のチェック・リストの関連情報を参照)。

## 2. 脅迫の評価

(1) 警備責任者は、脅迫の内容について分析し、その真偽を判断し、退避すべきか否か、警戒を強化すべきか否か等を決定することになるが、その決定は迅速に行う必要がある。

(2) その際、明らかにいたずらと考えられる場合を除き、一応本物の可能性があると考えて対応すべきであり、まず、社員全員を安全な場所に避難させ、現地警察に爆発物の捜索を依頼するのが無難な対応といえる。

(3) 真偽の判断に際しては、会社に対する怨恨や前兆の有無等関連の出来事を含め総合的に考えるべきである。

## 3. 避難

避難に当たっては、落ちついて整然と避難することが最も重要です。あらかじめ責任者は、次の措置を講じておきましょう。

(1) 避難計画をたて、関係者全員に周知し、それに基づいて訓練を行い、その都度欠点を修正する。

(2) 避難の態様(全員か一部か、屋外か屋内か)に応じた計画を定めておく。

(3) 避難経路(複数)を明確に示しておく。

(4) 避難統制のための補助者を指定しておく。

(5) 避難先(複数)を決め、その安全を確認しておく。

また、避難に当たっては、次のことが大切です。

(6) ハンドバッグ等私物は、可能な限り室内に残さず、仮に残しても取りに戻らない。

(7) 机の引き出し、扉等にはカギをかけない。

(8) 避難の前に、平素その職場にない物を発見した際は速報する。

(特に避難経路付近に不審物はないか)。

(9) すべての電気器具のスイッチを切る。

(10) すべての窓、ドアは開けたままにしておく。

## 4. 事後対策

爆破予告が本当であった場合はもちろん、仮に爆破予告電話があり避難等を行ったにもかかわらず、爆発物が発見されず、又は、爆発も発生しなかった場合にも、何事もなしに終わったからといって安心して忘れてしまうのではなく、このようなことが発生したことに対する原因究明の努力を行うべきです。また、次の点についても念のため措置をとっておく必要があります。

(1) 出入者、受理郵便物、小包等の検査を強化する。

(2) 外周道路における路上駐車を禁止する。

(3) 社員の自宅周辺、通勤途上の警戒を強化する。



## 3 爆弾テロの形態には主にどのようなものがありますか？

爆発物は時限式、衝撃感知式、操作式に分けることができます。その基本的な形態は以下のとおりですが、犯人は常に私

たちの予想もしないような方法でテロを行おうとしており、その  
犯行の手口を予測することは決して容易ではありません。

- (1) 手荷物等の使用
- (2) 小包や手紙の使用
- (3) 乗り物(車、トラック、自転車)に対する設置
- (4) 自爆
- (5) 手榴弾等爆発物の投擲

# Q

## 4 爆発物と疑われる物を発見した場合は、 どう対処したらよいのですか？

# A

爆発物の取扱いでミスを犯すと生命にかかわる重大な結果を招くこととなります。このため、爆発物の疑いのある不審な物品を発見した場合には、次のことに注意しましょう。

- (1) これに触ることなく、速やかに物件から遠ざかり、警察等関係当局へ通報し、事後の処理を依頼する。
- (2) 物件が小さくとも軽視しない。指サックやライター大の爆弾で人を殺すこともできる。
- (3) 物件は一つだけとは限らない。犯人は分かりやすい所に一個を仕かけ、他の爆弾から注意をそらせ、より大きな被害を発生させようと考えていることがある。

# Q

## 5 小包・手紙爆弾に対してはどうか対応し たらよいのですか？

# A

「小包爆弾」及び「手紙爆弾」の対策に当たっては、配達・受領時点での点検により、爆発物の疑いがあるか否かにつき早期に発見することが重要です。

不審物の疑いのあるときは特に取扱いに注意し、爆発物の疑いがあるとして措置をとることが必要です。

### 1. 小包・手紙爆弾等の送付方法等

「小包爆弾」及び「手紙爆弾」の送付方法としては、郵便、宅配便、直接届けられる場合が考えられます。

- (1) 郵便による場合：郵送過程で粗く扱われても爆発しないように作られているため、手渡されただけで爆発する可能性は低いが、多くは開披した瞬間に爆発するよう調整されており、受取人の不用意、不注意、無意識等に乗ずる。
- (2) 宅配便の場合：手紙や小包の引渡し時間を特定できるため時限起爆装置の使用が可能であり最も危険である。
- (3) 直接届けられる場合：手紙や小包を取り上げた瞬間に爆発するように仕組まれている可能性、若しくは開披した瞬間に爆発する方法がとられている可能性があり、対象を直接ねらえることから、テロリストの中にはこの方法をしばしば使用するものもある。

### 2. 小包・手紙爆弾等の特徴

- (1) 差出人が未知の人だったり、差出人の住所が記載されていないもの。
- (2) あて名や住所の誤字又は誤記がある。
- (3) 重量に違和感がある。

そのほかP.9の「小包及び手紙爆弾識別のためのチェック・ポイント」を参照してください。

### 3. 爆発物処理隊が到着するまでの措置

- (1) 小包や手紙爆弾が直接届けられた場合：触ることなく、遠ざかる。
- (2) 郵便や宅配便によることが明らかな場合：人の出入りが無い場所に保管する。
- (3) いずれも、必要により避難する。



## 6 自動車に仕かけられる爆弾に対する対策はどうしたらよいのですか？

爆弾攻撃の実行者は自動車に爆弾を仕かけることも多く、会社や住宅における爆弾対策とともに自動車に仕かけられる爆弾対策にも、次のように心がける必要があります。

- (1) 夜間、長時間路上や警備員のいない駐車場に車を放置することはできるだけ避ける。また、自宅や事務所のガレージは外部からの不審者が近づけないよう工夫する。
- (2) 車に乗り込む際には、車体を一巡して異常がないか確認する。  
この際、特にタイヤ周辺、車体下部、車内に異常がないか確認する。
- (3) さらに詳細な点検を行う場合には、P.10の「車両設置爆発物点検方法」により実施する。



## 7 自爆テロに対してはどう対応したらよいのですか？

自爆テロの方法は、実行犯がベルト等に巻いた爆発物を隠し持ち実行するもの、爆発物を積んだ自動車や航空機等の乗り物を使用して実行するものに大別できます。いずれの場合もその爆発自体を防ぐことは非常に困難となりますが、被害を最小限に抑えるため、少しでも早く不審人物の以下のような特徴を察知することが重要です。

なお、乗り物を使用した自爆テロへの備えとしては、前記Q1に挙げた対策を徹底させることが最善の方法ですが、コンクリート製の車止めを設置する等の大がかりな対策も必要となります。

- (1) 実行犯は腹部や大腿部に爆発物を固定した太いベルトを装着することから、ぎこちない動きをする。
- (2) 身体に装着した爆発物を隠すため、夏場でも不自然に厚着をしている。
- (3) 自爆を目前にして、緊張から振るまいが神経質で特異な印象を受けることが多い。また、実行犯は麻薬等薬物を服用している場合もあり、表情や行動が異常な場合が少なくない。
- (4) 自爆時に爆発物を作動させる必要があるため、腹部や大腿部をまさぐる格好をとる(ただし、時限式、リモートコントロール式の爆発物の場合はこの限りではない)。





## 8 爆弾事件に巻き込まれないためにはどうしたらよいのですか？

企業関係者に加え旅行者も、直接爆弾テロの標的にされなくても、爆弾テロ事件の巻き添えになるおそれがあります。日ごろから次のことを心がけておきましょう。

- (1) 所在地における爆弾テロ事件の発生状況、発生の可能性の有無等、爆弾テロ事件に巻き込まれるおそれがないかについて、あらかじめできるだけ具体的に承知しておく。
- (2) 無差別爆弾事件が発生している地域への立入りや交通手段はできるだけ控える。
- (3) やむを得ず立ち入る(利用する)場合にも、爆弾テロの標的となるおそれのある場所への立入りは避け(利用は最小限にとどめ)、また無差別爆弾事件が多く発生している時間帯を避ける。
- (4) 出張等で空港を利用する場合、空港のチェックイン・カウンターはしばしばテロリストの襲撃のターゲットとなっていることを念頭に置き、不必要にチェックイン・カウンターのそばに近寄らない。その他にもホテルのフロント等不特定多数の人の立ち入りが容易なところへの滞在時間は最小限とするよう心がける。
- (5) 爆風によりガラスが飛散し、被害を受けることがあるので、ガラスを多く使用した高層建築の下等層はなるべく通行しないようにする等、日ごろから注意する。建物内にいるときには、窓や外に面した扉からはなるべく離れた場所(柱などのしゃへい物があればなおよい)に身をおく。
- (6) その場所にふさわしくない物体や時計のような音がする物体。  
電源らしき物と繋がっている物体等は爆発物である可能性もあり、絶対に触れない。また周囲の人々がそれらの物体に近づかないよう周知する。



## 9 実際に爆発事件に遭遇した際はどうに対応したらよいのですか？

爆発事件に遭遇してしまっても、パニックにならずその被害をより小さく食い止めるよう努めることが重要です。爆発の規模、発生場所等によりその対応は様々ですが、基本的な対応要領は以下のとおりです。万一爆発事件に遭遇した際には、必ず現地の日本国大使館又は総領事館と連絡をとるようお願い致します。

- (1) 付近で爆発が発生した場合  
最近では、第1の爆発をおとりにして、第2の爆発を発生させる事件も度々発生しています。そのため、爆発音を聞いたならばその場に伏せ、その後現場から速やかに離れることが重要です。この際、逃げる人々に押し倒されて下敷きにならないよう注意しましょう。もし倒れ込んでしまった場合は、混乱した人々の流れが収まるまで膝を抱えて丸くなり、待つことで被害を最小限に抑えることができます。非常事態においては、周囲の喧嘩や騒乱に対して余計なアクションを取らないようにしましょう。
- (2) 爆弾等により瓦礫の下敷きになってしまった場合  
基本的には以下のとおりですが、とにかくまず落ち着くことが大切です。事件発生場所によっては救難活動に時間が掛かることも予測されるので、体力の温存にも心掛ける必要があります。また、周囲の人々が瓦礫の下敷きとな

ってしまった場合は、特別な訓練を受けていない限り、崩壊した建物の中に閉じこめられた人を無理に助けようとせず、救助隊の到着を待つことが賢明です。

(イ) 火を灯さない

(ロ) むやみに動き回らない

(ハ) 埃等有害物質を吸い込まないようにハンカチ等で口を覆う

(ニ) 救助隊に居場所が分かるように、パイプ等をたたく(瓦礫等がくずれないように注意する必要がある)。

(ホ) 叫ぶことは有害物質を吸い込む恐れがあるため、なるべく最後の手段とする。

## 小包及び手紙爆弾識別のためのチェック・ポイント

### <外見>

- ・住所・氏名等の記載内容、消印、切手等が不自然  
(差出人の住所・名前の欠如、差出人住所と消印の相違、切手の貼り過ぎ等)
- ・包装が不自然  
(稚拙な包装、テープやひもを多用し必要以上に頑丈等)
- ・必要以上に「親展」、「至急」、「取扱い注意」、等の表示
- ・ワイヤー、ひも等の突出及び油状のシミや汚れ

### <臭い>

- ・靴墨、アーモンドのような臭いや芳香

### <重さ>

- ・異常な重さ(軽さ)や重さのバランスに片寄り
- ・手紙爆弾の場合には、通常の手紙に比し、重く、厚みあり<感触> \*ただし、強く押したり、振らないこと
- ・不自然な固さや弾力感
- ・突起物や塊状物質の存在感
- ・内容物にガタつき
- ・時計のような音や液体の音等異常な音

## 車両設置爆発物点検方法

点検順	点検項目	点検要領	着眼点
1	車 外	① 車体を一巡して異常がないか確認 ② 車体の隙間（例えばボンネット、ドア、トランクと本体）に名刺又はカードを差し込み、くまなくチェックする。	コード類の端末はないか？ 車内は荒らされていないか？ 異物、異常なひっかかりはないか？
2	タイヤ周辺	① タイヤの状況及び前、後方の接地部の点検 ② 泥よけ部分(ボディー)内部の点検 ③ サスペンション部分の確認 ④ タイヤホイールがついている場合はホイール内部も確認 *ホイールを開ける場合はまず隙間を目視で確認、ついで名刺等を差し込んで異常の有無を確認し、ホイールを開ける。	目視後手探り点検 ホイールを開ける際は、一気に開けることなく、まず半開きにし、異常の有無を確認した後取り外す
3	車体下部	① まず目視で確認 ② ついでボディー内部を手探り点検 ③ パンパーの点検 ④ マフラーの点検	必ず奥のほうまで手を入れて確認
4	車 内	① まず車内に異常がないことを確認 ② ドアを開ける際はまず半開きにし、ドアと本体の間に異常がないか確認 ③ ドアを開放したら、まず内部を目視で確認、ついでシートの下、足置きマット等を手探り点検	一気に開けない 車内全部に対し実施、特に灰皿、ダッシュボード、シートの切目、ドア付属の物入れ等は要注意
5	エンジンルーム	① ボンネットのロックを外す ② ボンネットを少し持ち上げ、異常がないか確認してから全開 ③ ボンネットの隙間を点検、エンジンの周囲、エアクリーナー、ウォッシュャータンク等の点検	一気に開けない 蓋付のものはすべて開けて確認・点検、特にエンジン部周辺は重点的に実施
6	トランク	① エンジンルームの点検 ② 目視後マットの上から軽く手探り点検 ③ 敷マットを取り除き内部を点検 ④ 予備タイヤも点検	トランク内部の物はすべて取り出しチェック タイヤハウスと本体の隙間を見落とさない
7	給油口	給油口を開け確認	一気に開けない

## 脅迫電話チェック・リスト

### <爆破予告>

#### 1. 質問事項

- (1)爆弾はいつ爆発しますか。(2)現在どこにありますか。  
(3)どのような形をしていますか。(4)どんな種類の爆弾ですか。  
(5)どうすれば爆発しますか。(6)あなたが爆弾を仕かけたのですか。  
(7)なぜですか。(8)あなたは誰ですか。

#### 2. 脅迫に使われた正確な言葉

#### 3. 相手の性別、年齢、国籍

#### 4. 電話がかかってきた電話番号、通話時間の長さ、日時

#### 5. 通話終了後、直ちに次に報告すること。電話番号:〇〇-〇〇〇〇

### (関連情報)

#### (1)相手の声

落ち着いている	どもっている
怒っている	舌がもつれている
興奮している	しわがれ声
笑っている	深い声
泣いている	耳障りな声
ゆっくりしている	せき払い
速い	息遣いが荒い声
低い	すれ声
大きい	音色を使っている
はっきりしている	なまりがある
はっきりしない	聞き覚えがある
鼻にかかっている	

聞き覚えのある声である場合、だれの声のようですか。

#### (2)背景の音

街頭の雑踏	工場の機械音
食器の音	動物の声
人の声	はっきり聞こえる
拡声器音	静か
音楽	近距離電話
住居の雑音	遠距離電話
自動車の音	電話ボックス
事務所機械音	その他

#### (3)脅迫の言葉

教養ある言葉遣い	支離滅裂な言葉遣い
乱暴な言葉遣い	テープ吹き込み
非論理的	脅迫者によるメッセージの読み上げ

#### (4)その他

※本表を電話の下に置いておくこと

## ■外務省作成の小冊子等

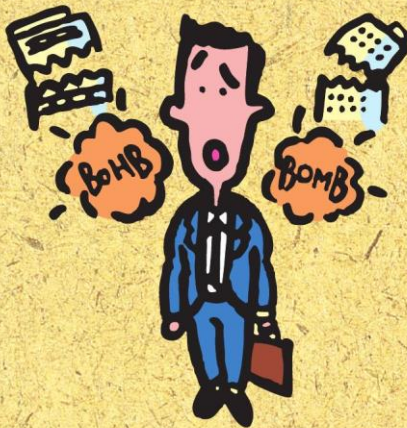
- ・「海外安全 虎の巻」-海外旅行のトラブル回避マニュアル-
- ・「海外旅行のテロ・誘拐対策」
- ・「海外における脅迫・誘拐対策Q&A」
- ・「海外赴任者のための安全対策小読本」
- ・「海外へ進出する日本人・企業のための爆弾テロ対策Q&A」
- ・「海外へ進出する日本人・企業のためのCBRN(化学、生物、放射性物質、核兵器)テロ対策Q&A」

## ■海外安全情報

海外安全ホームページ <http://www.anzen.mofa.go.jp/>

たびレジ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>

海外安全アプリ App Store または Google Playで「**海外安全**」で検索



## ■海外における諸事件に関する外務省連絡先

外務省

電話番号： (代表) (03) 3580-3311

領事サービスセンター (海外安全担当)

電話番号： (代表) (03) 3580-3311 (内線) 2902/2903

領事局邦人テロ対策室 (海外におけるテロ事件、誘拐、脅迫、ハイジャック、人質事件等)

電話番号： (直通) (03) 5501-8165

領事局海外邦人安全課 (上記以外の一般邦人保護、緊急事態の邦人保護等)

電話番号： (直通) (03) 5501-8160